

2024 IKEDAKEBUNKO EZUTEN

Beginning of the Edo Period and Ikeda Family

大坂夏御陣図



令和6年度 企画展 池田家文庫絵図展

江戸時代のはじまりと池田家

〔関ヶ原戦図〕



岡山大学附属図書館
Okayama University Libraries



岡山ラティミュージアム
OKAYAMA CITY MUSEUM



林原美術館
HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

令和 6 年度池田家文庫絵図展「江戸時代のはじまりと池田家」図録 正誤表

頁	番号	箇所	誤	正
4	4	解説文 1 行目	<u>輝政</u> は犬山城城代と	<u>恒興</u> は犬山城城代と
6	13	解説文 1 行目	現在の <u>静岡県</u> 豊橋市	現在の <u>愛知県</u> 豊橋市
14	36	解説文 7 行目	の池田 <u>正綱</u> （池田輝政	の池田 <u>政綱</u> （池田輝政

令和6年度
企画展

池田家文庫絵図展

江戸時代のはじまりと池田家

Beginning of the Edo Period and Ikeda Family

- 会 期 令和6年11月9日(土)～12月8日(日)
- 会 場 岡山シティミュージアム 5階展示室
- 主 催 岡山大学附属図書館・岡山シティミュージアム
- 共 催 林原美術館
- 後 援 岡山県教育委員会・岡山市教育委員会

池田家文庫は、岡山大学附属図書館の所蔵する江戸時代の備前岡山藩池田家の藩政資料約68,000点を中心とする、約10万点におよぶ一大資料群です。岡山空襲による滅失を免れ、岡山大学で保管・研究・活用・公開されています。平成17年3月に岡山市と岡山大学は、文化事業協力協定を締結しました。以来、岡山シティミュージアムを会場に「池田家文庫絵図展」と題し、池田家文庫を広く地域社会の皆様に公開し、親しんでいただける機会を提供しており、今年で20回目の開催となります。さらに令和元年からは、林原美術館の収蔵品も加わり、備前岡山藩の貴重な歴史遺産が一堂に会する機会となっています。

膨大な資料数を誇る池田家文庫ですが、毎回テーマを設定し、厳選して展示しています。今回は「江戸時代のはじまりと池田家」をテーマに、江戸時代のはじまりまでの時期における池田家の動向と社会の動きに焦点を当てました。

統一タイトルを「絵図展」としているように、例年、見た目にも美しく、読み解くほどに興味のわく絵図を中心に構成していますが、この度は、信長、秀吉、家康という「天下人」から池田輝政に宛てられた書状も集めました。そして、国の重要文化財に指定されている「信長記」を、池田家文庫絵図展としては、平成18年の第2回展以来、出展します。

本展により、岡山の文化資源の豊かさを再認識いただくとともに、地域の歴史や文化財への興味関心を高めていただければ、幸いです。

2024年11月9日

岡山大学附属図書館
館長 甲賀研一郎
岡山シティミュージアム
館長 水野 剛

関連行事

Event

オープニングトーク

日 時 令和6年11月9日(土) 午前10時10分～午前10時40分
場 所 岡山シティミュージアム 5階展示室
講 師 岡山大学 学術研究院社会文化科学学域 准教授 東野 将伸 氏

講演会「中世の終わり ― 中国地方の戦国時代 ―」

日 時 令和6年11月23日(土) 午後2時～午後4時
場 所 岡山シティミュージアム 4階講義室
講 師 岡山大学 学術研究院教育学域 教授 村井 良介 氏

凡例

Introductory

- 1 本図録は、岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムが令和6年11月9日(土)～12月8日(日)の会期で開催する「企画展 池田家文庫絵図展『江戸時代のはじまりと池田家』」の図録である。
- 2 展示番号と本書の図版番号、展示資料目録に記した番号は一致する。岡山大学附属図書館所蔵の資料については、図版番号、資料名、頁数、年代、池田家文庫整理番号、法量（タテ×ヨコ、cm）の順に記した。原名のないものや原名が長文に及んでいるものについては内容に相当と思われる題名を選んで与え、〔 〕を付けて区別した。林原美術館収蔵の資料には、林1から始まる番号を付し、資料名、頁数、年代、林原美術館収蔵品番号、法量（タテ×ヨコ、cm）の順に記した。
- 3 本書に掲載した展示資料の写真は、岡山大学附属図書館が所蔵する絵図デジタル画像及び岡山シティミュージアムが撮影した画像である。林1、2の写真は林原美術館の提供による。
- 4 本書の総説・展示資料解説は、岡山大学学術研究院社会文化科学学域准教授 東野将伸が執筆した。林1、2については林原美術館の提供による。本書の編集は岡山大学附属図書館と岡山シティミュージアムで行った。

目次

Contents

I	令和6年度 池田家文庫絵図展 「江戸時代のはじまりと池田家」解説	1
II	出展資料解説	3
III	出展資料目録	20
IV	池田家文庫絵図展・記念講演会等開催記録	21

はじめに

池田家は宇喜多家・小早川家について岡山の地を治めた大名である。寛永期に池田光政・池田光仲の間で岡山藩・鳥取藩の国替えが行われ、以降は光政の系譜を継ぐ藩主が備前国一国と備中国の一部を治めた。同家の来歴をみると、池田恒興（1536～1584）が織田信長の重臣であり、その母の養徳院は信長の乳母を務め、君臣の関係は深いものがあつた。その後、豊臣秀吉・徳川家康に仕え、江戸時代には大名や旗本として複数の池田一族の家が存続した。

池田家文庫は光政以降の岡山藩政に関わる文書を主としているが、光政以前の藩主や池田家歴代に関する史料、さらにいわゆる「天下人」が発給した文書類も多く残されている。

過去の池田家文庫貴重資料展・池田家文庫絵図展では、平成18年度（2006）に「戦さと城」、同22年度に「絵図にみる中国四国地方の城下町」、同29年度に「池田光政と絵図」をはじめとして、江戸時代初期・前期の政治状況に関わる史料や各地の城絵図を取り上げてきた。今年度の展示では、『信長記』池田本や江戸時代初期の判物・書状類、合戦図、家臣団に関する史料などを取り上げる。光政以前からの池田家の動向や、戦いの終結と新たな時代の到来による社会の変化に思いを馳せていただければ幸いである。

(1) 戦国・織豊期の池田家

池田恒興は信長の軍事行動に付き従い、たびたび功績を挙げた。本展示では、時代が異なる絵図が含まれるものの、池田家が従軍した地を描いた絵図を複数出展している。

桶狭間の戦いの後、恒興は信長の美濃攻略に付き従い、元亀元年（1570）に犬山城の城代となって付近に1万貫の知行を与えられている。その後、恒興は長男元助とともに越前朝倉攻め、さらに次男輝政（1565～1613）も加えて摂津攻略に出陣している。『信長記』池田本にみられる通り、花熊合戦において池田家は大きな戦功を挙げ、恒興は摂津国内に約10万石を得た。その後、天正10年（1582）には甲府新府城の武田攻めにも従軍し、武田家を滅亡に追い込むが、同年の本能寺の変によって信長が死去する。恒興は剃髪して勝入と号し、これ以降は主に羽柴秀吉と行動をとる。柴田勝家を攻めた賤ヶ岳の戦いの後、恒興は美濃国大垣城主となり、約13万石を領した。

天正12年（1584）3月に始まった小牧・長久手の戦いにおいても、池田家は秀吉方として家康方と対峙した。4月9日の朝、秀吉方は家康方の攻撃を受け、勝入・元助父子も討ち死にしている。人質として後陣にあった輝政は無事であり、以降は同人が当主として一族を率いていく。輝政は同13年に大垣から岐阜10万石へと移され、同年には紀州雑賀・根来攻めと越中佐々成政攻め、同15年の九州島津攻め、同18年の小田原攻めと奥州仕置に従軍し、この後三河国吉田城を拠点として15万2000石を領している。以上の通り、輝政は秀吉の軍事行動の一翼を担い、一貫して重用されていた。

(2) 池田家と関ヶ原の戦い・大坂の陣

慶長3年（1598）8月、慶長の役の最中に秀吉が死去したことを受け、徳川家康と石田三成を中心とする勢力との間での対立が顕在化、同5年に関ヶ原の戦いが起こる。輝政は東軍（家康方）に属し、初戦にあたる岐阜城攻めにおいて大きな功績を挙げた。その後、輝政は播磨一国52万石、弟の長吉は鳥取に6万石を与えられた。これ以降、輝政によって姫路城の大規模な修築が行われ、現在にまで続く城郭建築が整備されている。

池田家による岡山の支配は、輝政と富子（徳川家康娘）の子である藤松丸（忠継）が備前国を与えられたことに始まる。藤松丸は幼少であったため、輝政の長男である利隆（1584～1616）が備前国の支配を「監国」することとなった。この時に、利隆の長男として岡山に生まれたのが新太郎（光政、1609～1682）である。後に輝政と富子の子である忠雄にも淡路国が与えられ、全体として

池田家は西国の百万石近くを有する有力大名となった。輝政自身は、「播磨宰相」、「西国の将軍」と称されるほどの権勢を誇った。

慶長18年(1613)に輝政が死去し、長男の利隆が家督を相続する。利隆には播磨国13郡42万石の継承が許され、備前国に接する宍粟・佐用・赤穂の3郡10万石は岡山の忠継に与えられたが、忠継は同20年に死去する。これを受けて、忠雄が備前国一国と備中国の一部(3万5000石)を領することとなり、播磨の三郡は忠継の弟3名に与えられた。この時期の池田家では、家康の孫たちが厚遇され、利隆は冷遇に近い扱いを受けていたことが指摘されている。一方で、慶長19～20年の大坂冬の陣・夏の陣に利隆は従軍し、いずれも軍功を挙げている。

池田家文庫には関ヶ原の戦いと大坂の陣を描いた絵図が複数現存しており、池田家にとって特に重要な功績とみられていたことをうかがわせる。これらの絵図には、岐阜城攻めにおける輝政の功績をはじめ、池田家の動向が書き込まれているものもみられる。一方で、時代がより古いこともあろうが、池田家が家康と敵対した小牧・長久手の戦いを描いた絵図の現存点数は少ない。

大坂夏の陣の翌年である元和2年(1616)に利隆は死去し、嫡男の新太郎(光政)が家督を相続する。しかし、翌年には幼少であることを理由に播磨から因幡・伯耆32万石への転封を命じられ、鳥取で6万石を領していた池田長幸(長吉の長男)は5000石加増のうえで備中松山へ移されることとなった。

(3) 池田一族と所領

寛永9年(1632)には池田忠雄が死去し、嫡男の勝五郎(光仲)が幼少であることを理由として、光政との間で国替が行われた。これにより光政が岡山藩主となり、以降明治初期まで光政の系譜を継ぐ藩主が岡山藩を治めることとなった。

光政が岡山へ入部した時点では、岡山藩、鳥取藩、備中松山藩、山崎藩、赤穂藩を池田一族が治めており、光政は惣領として一族を主導する立場にあった。その後、17世紀後期までには、備中松山藩の断絶と旗本への取り立て、山崎藩・赤穂藩の改易(山崎藩は後に池田一族の者が治めるが再度断絶)を経て、池田一族の大名は岡山藩・鳥取藩の両藩となった。本展示では、池田一族が治めた領知や城の絵図も複数出展している。

光政は、島原・天草の乱や寛永飢饉、承応年間(1652～1655)の洪水への対応などを通じて、権力を藩主に集中させる体制を確立した。他方で、光政が逐一目を通したとされる「諫箱」(目安箱)やその内容を記した書付類からは、地域や領民の生活への深い関心と自己反省的な人柄をうかがえよう。また、光政が家臣に仰せ聞かせた内容からは、「上様」(将軍)から国を預かる「国主」としての責任感や、家臣も自覚を持って「国主」を支えるべきであるとする思想がうかがえる。ここからは、江戸幕府の体制確立期において、幕府支配を積極的に支えた大名の自己認識の典型例を見出すこともできよう。

池田家文庫には、池田忠雄・利隆といった光政前代の治世や法、また光政の言行をまとめた文書も残されており、特に光政が後の藩主や領民にとってある種の模範とされる存在であったことを物語る。本展示からは、江戸時代の大半にわたって岡山の地を治めた池田家が、紆余曲折を経つつも有力大名として戦乱の時代を生き抜き、安定的な支配体制を構築していった様子もうかがえよう。

なお、本展の監修および本図録の執筆にあたっては、『岡山大学所蔵 池田家文庫総目録』および『天下人の書状をよむ 岡山藩池田家文書』の両書籍を多く参照している。特に後者には文書の写真・翻刻文・解説などが掲載されており、戦国～江戸時代前期の池田家の動向を知るうえで非常に有益である。関心のある方はぜひ目を通していただければと思う。

岡山大学学術研究院社会文化科学学域 准教授 東野将伸

〔参考文献〕

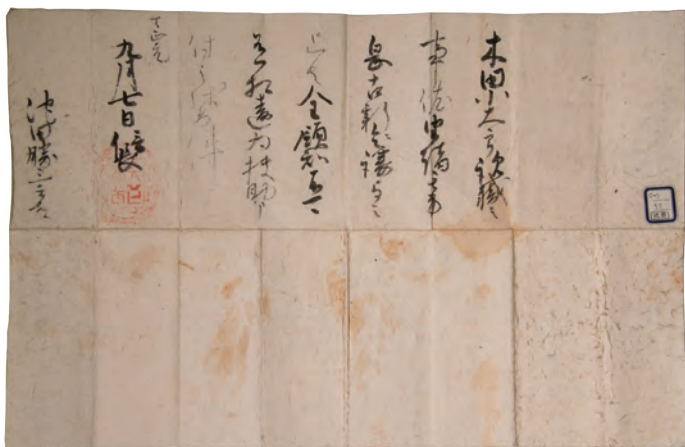
- 岡山大学附属図書館編集・発行『岡山大学所蔵 池田家文庫総目録』(1970年)
- 岡山大学附属図書館・林原美術館編『天下人の書状をよむ 岡山藩池田家文書』(吉川弘文館、2013年)
- 倉地克直『池田光政』(ミネルヴァ書房、2012年)
- 谷口澄夫『岡山藩政史の研究』(塙書房、1964年)
- 中元孝迪『西国将軍池田輝政 姫路城への軌跡』(神戸新聞総合出版センター、2021年)
- 藩法研究会編・石井良助編纂『藩法集(1) 岡山藩(下)』(創文社、1959年)
- 藤井駿・水野恭一郎編『岡山県古文書集 第四輯』(思文閣出版、1981年)
- 岡山県史編纂委員会編『岡山県史』第六卷近世Ⅰ、第七卷近世Ⅱ、第八卷近世Ⅲ、第九卷近世Ⅳ、第十卷近代Ⅰ(岡山県、1984～1989年)
- 岡山県歴史人物事典編纂委員会編『岡山県歴史人物事典』(山陽新聞社、1994年)
- 国史大辞典編纂委員会編『国史大辞典』全15巻(吉川弘文館、1979年～1997年)

【戦国・織豊期の池田家】

1 〔池田恒興宛織田信長朱印状〕

1通 天正元年（1573）9月7日
C9-57 29.0 × 45.2

「天下布武」の朱印が押された信長の書状。内容は、それまで池田勝三郎（信輝〈恒興〉）が知行していた木田小太郎跡職（領知）を、息子の古新（輝政）に譲与することを認め、安堵するというもの。輝政はまだ10歳と幼少であった。



2 信長記（第1・2・3・13巻）

4冊 慶長15年（1610）
貴-48 24.2 × 16.9



織田信長の家臣であった太田牛一による、信長の伝記（全15巻）。永禄11年（1568）前後の信長上洛の経緯から、本能寺の変で亡くなる天正10年（1582）まで1年1巻で記述されている。池田家文庫本の「信長記」は、太田牛一本人の筆による（巻12のみ写本）ものであり、かつ現在に伝わる信長記諸本のうち最も古いものと考えられる。池田輝政が信長記を求めたとされており、天正8年（1580）の花熊合戦で初陣を飾った池田幸新（のちの輝政）が、父勝三郎（恒興、のちに信輝）や勝九郎（之助）とともに功名をあげ、信長から「感状」をもらったことに加えて、同10年の甲斐武田攻めに関する記述も書き加えられている。著者自筆かつ池田家仕様という他に例のない信長記である。国指定重要文化財。

3 〔郷司作内宛池田恒興（信輝）判物〕

1通 天正9年（1581）10月17日
C9-28 29.0 × 45.2

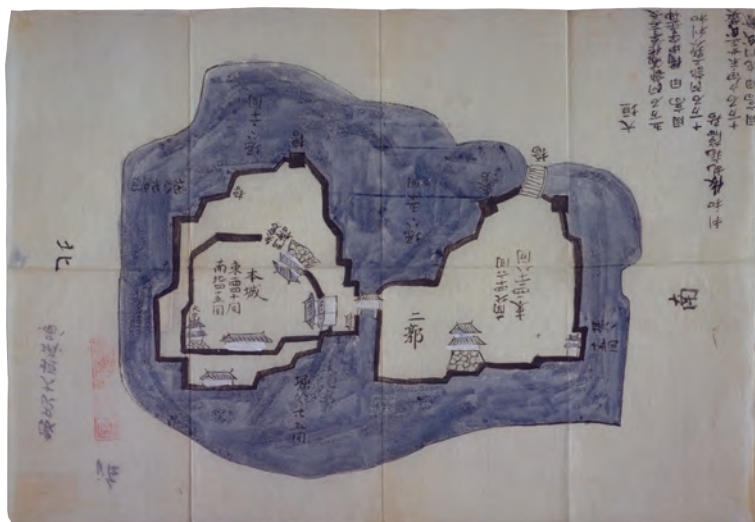
池田恒興から郷司作内へ宛てられた知行宛行状である。長洲の内から100石の土地を与える内容であり、包紙に「信輝公御花押」とある通り恒興の花押が確認できる。



4 〔美濃国絵図〕

1枚（未詳）
T1-67 116.9 × 164.8

桶狭間の戦いの後、信長は西進して齋藤氏を滅ぼし、輝政は犬山城城代となって付近に1万貫の知行を与えられた。本図は17世紀の状況を描いたとみられる一連の国絵図の中の1点である。付紙には、苗木、岩村、加納、大垣、高須の各藩の石高と藩主名が記されている。



5 濃州大垣城図

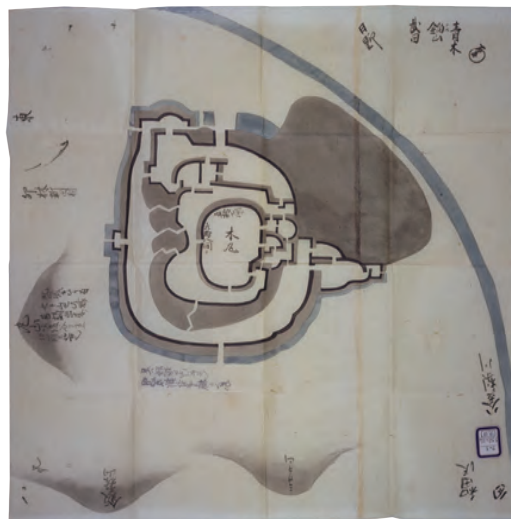
1枚（未詳）
T3-193 27.6 × 40.7

美濃国大垣城を描いた図である。天正11～13年（1583～1585）に池田恒興・輝政が居城とし、13万石を領した。その後輝政は美濃国岐阜城主となり、10万石を領している。近世の同城は寛永13年（1636）以降、大垣藩戸田氏の居城となった。

6 甲斐新府中城之図

1枚（未詳）
T3-332-24 40.7 × 40.4

天正10年（1582）の織田軍による甲斐武田攻めに輝政は従軍している。本絵図裏面に「甲斐新府中城之図、是ハ勝頼公御取立也」とある通り、本城は武田勝頼の拠点として、天正9年12月に韮崎（現在の山梨県韮崎市）に築かれた。しかし、織田軍の進軍を受け、わずか2ヶ月ばかりで勝頼自らの手によって火をかけられ、その直後に甲斐武田家も滅亡している。



7 長久手古戦場之図

1 枚 (未詳)

T12-115 107.6 × 103.5

表紙が付けられ、題箋に「長久手古戦場之図」とある。天保11年(1840)10月付けの尾張藩士富田敏の識語があり、この時に作られたと考えられる。戦陣図というよりは、古戦場案内図のようなものであり、地誌的関心が強い。岡山藩からの依頼を受けて、現地の状況を描いたものだろうか。陣取りや戦闘の様子も書き込まれており、特に「池田勝入」についての書き入れが目立つ。



8 越中富山城図

1 枚 (未詳)

T3-34 27.9 × 40.6

天正13年(1585)8月、秀吉は小牧・長久手の戦い以来敵対していた佐々成政が治める越中・富山城を攻めた。池田輝政もこれに従軍している。絵図の右箇所には、佐々成政の後に富山を治めた前田家(富山藩)やその当主についての記述がみられる。

9 [池田輝政宛豊臣秀吉朱印状]

1 通 (天正18年(1590)) 3月23日

C9-62 45.6 × 63.2

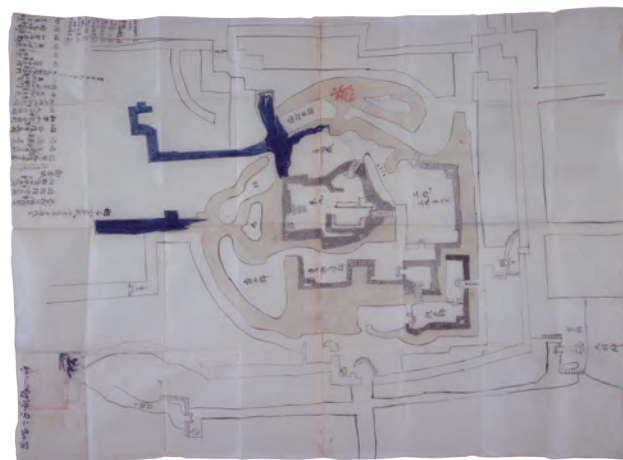


宛名に「羽柴岐阜侍従との」とある通り、輝政が岐阜に在城した天正13～18年(1585～1590)の朱印状であるが、内容から同18年の小田原北条氏攻めに関わるものと考えられる。輝政の小田原到着は3月29日であるため、その途中で手勢1000人を連れて木曾の材木を運び出すよう命じられたとみられる。池田家は後に姫路城をはじめとした城郭普請にたびたび取り組むが、各時期の「天下人」に仕える中での様々な経験も活かされたのであろう。

10 相州小田原城之図

1 枚 (未詳)

T3-98 49.6 × 69.2



後北条氏の居城となった小田原城の図である。秀吉による関東平定のための小田原合戦が天正18年(1590)に行われ、池田輝政も主力として従軍している。余白には同城を治めた領主の名前が記されており、江戸時代には多くの時期において大久保氏の支配下にあった。

11 〔池田輝政宛豊臣秀次黒印状〕

1通 天正19年(1591)8月20日
C9-45 32.8 × 47.2

郡絵図の記載について、隣郡との境目、山・川・道・橋などに至るまで入念に記すべきことが命じられている。秀吉の奥州平定から間もない時期であり、輝政は秀次とともに奥州に出兵している。この時の郡絵図作成に関わるものとみられ、特に軍事と関わる道や橋への関心の高さがうかがえよう。前欠の文書とも考えられているが、詳細は不明である。



12 〔三河国絵図〕

1枚 (未詳)
T1-48 108.2 × 77.8

小田原合戦の後、輝政は吉田城を居城として東三河四郡に15万2000石を領した。本図では山形が南(海)から北を見た方向に描かれ、文字も基本的に同じ方向である。居城として「吉田」「田原」「岡崎」「西尾」「荻屋」の貼紙がある。貼紙にはそれぞれ「四万五千石 小笠原山城守」「壹万貳千石 三宅能登守」「五万五千石 水野監物」「貳万三千石 土井兵庫」とあり、近世前期における各藩の藩主と石高が記されているが、荻屋には付箋がない。

13 参州吉田御城図

1枚 (未詳)
T3-97 40.7 × 84.7

吉田城(現在の静岡県豊橋市)の縄張りおよび城下町の様子を描いた略図。端裏に「参州吉田御城図」とある。兵学用に全国の城郭・城下町の絵図を集成したもの一枚か。余白の書込のうちに「天正十八年 十五万石 池田三左衛門輝政」とある。池田輝政は、天正18年(1590)から慶長5年(1600)まで吉田に在城した。



14 〔池田輝政宛豊臣秀吉朱印状〕

1通 (文禄2年(1593))7月26日 C9-61 46.0 × 65.8

輝政に建造が任せられた大船の出来栄が優れていることを賞賛し、武器類や上乘の者も送るため受け取るように命じられている。「高麗仕置」とある通り、文禄の役に関わるものであるが、秀吉が戦況を楽観視していたことがうかがえる。しかし実際の戦況は厳しいものであり、現地では和議の交渉も始まっていた。輝政自身は出兵には至らなかったが、船奉行の中村主殿が秀吉の命令で武器・兵糧を朝鮮へ運んだとされている。

【池田家と関ヶ原の戦い・大坂の陣】

15 〔関ヶ原合戦図〕

1 枚（未詳）
T12-27 140.8 × 159.6

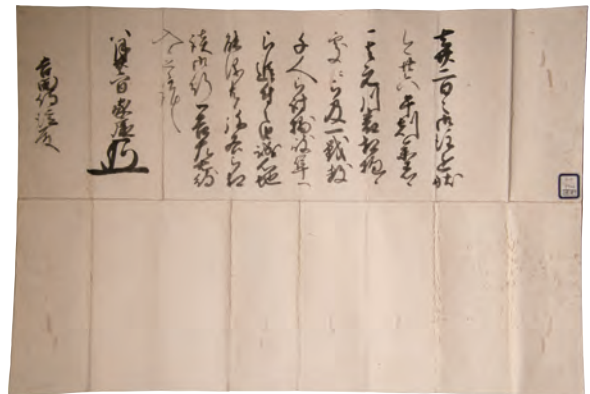
慶長5年（1600）9月14日から翌日の関ヶ原の戦いに至る行軍経路や各大名の配置を描いた絵図である。美濃赤坂町、南宮山の近隣に「池田三左衛門」（輝政）の名前がみられる。関ヶ原は絵図の西側部分を描いた箇所にもみられ、「合戦場」との記述がある。本図と類似した構図の絵図が、池田家文庫には複数残存している。



16 〔池田輝政宛徳川家康書状〕

1 通（慶長5年〈1600〉）8月26日
C9-77-1 37.0 × 54.2

吉田侍従（池田輝政）の注進状に対する家康の返書。岐阜城攻めにおいて、西軍の軍勢数千人を討ち捕らえたことを「誠に心地能き義」と賞している。これらの功績が、関ヶ原戦後の播磨一国拝領につながったとみられる。



17 〔池田輝政・福島正則宛徳川家康書状〕

1 通（慶長5年〈1600〉）9月朔日 C9-77-3 37.0 × 54.1



同年9月15日の関ヶ原の戦いに先立ち、家康の神奈川到着や輝政（吉田侍従）と福島正則（清須侍従）の垂井への陣取について記され、家康と秀忠（中納言）の到着を待つよう命じられている。これに先立つ8月23日に、池田輝政と福島正則の率いる軍勢によって岐阜城が落とされている。池田家文庫には同年8月の輝政宛家康書状が3通残されており、重要な戦力である池田家に対して、家康から細やかな指示や配慮がなされていたことがわかる。

18 〔正木時茂宛徳川秀忠書状〕

1 通 (慶長5年〈1600〉) 9月11日
C9-80 36.4 × 52.3

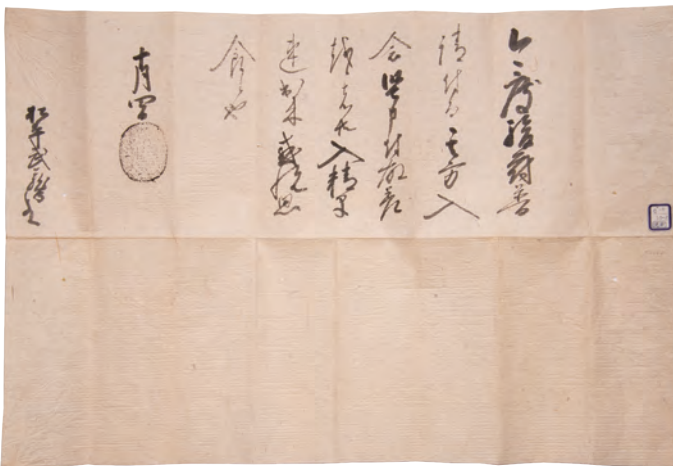
秀忠から安房の大名である里見義康の家老正木時茂へ宛てられた書状である。正木は秀忠の西上に付き従うことを希望していたが、当時は宇都宮に陣取って上杉景勝の抑えとなっていた里見家に対して、そのまま待機するよう命じられている。慶長19年(1614)に里見家は断絶、正木は鳥取の池田光政に預けられ、後に子孫が光政に仕えたことから、本書状が池田家文庫に伝存したものと思われる。



19 〔池田利隆宛徳川家康黒印状〕

1 通 (慶長12年〈1607〉) 10月4日
C9-53-2 41.7 × 62.4

慶長12年(1607)3月～7月にかけて、池田輝政・利隆父子を含む諸大名に対して駿府城普請の御手伝が命じられた。本書状では利隆(松平武蔵守)が差し越した者たちの働きがよく、早速に普請が完成したことが褒賞されている。しかし、同城は同年12月に焼失しており、翌年に殿舎が再建された。同10年に秀忠に將軍職を譲った家康は駿府に隠居したが、元和2年(1616)の死去まで大御所として政治を行った。



20 播州姫路城下図

1 枚 (未詳)
T6-30 90.0 × 124.6

姫路城と城下町を描いた絵図。本丸内は天守閣・御殿・櫓を絵画的に描いている。城下部分については、家中屋敷・組屋敷・町・寺などの区別を文字で示している。本図と同一の絵図(T6-31)があるが、本図の方が古い写しである。関ヶ原の戦いの戦功により、輝政は播磨一国52万石を与えられ、姫路に在城した。





21 〔姫路城内家臣用屋敷割図〕

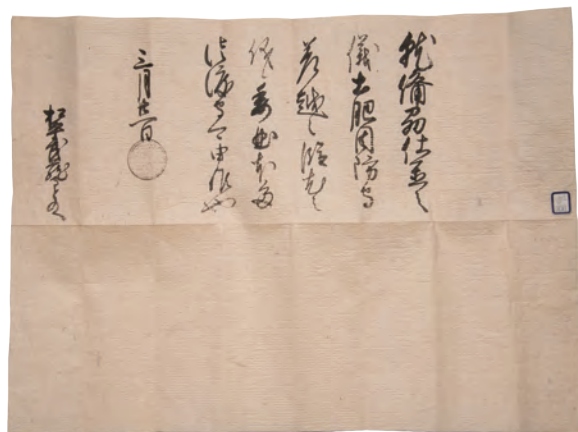
1 枚 (未詳)
T3-12 102.8 × 98.2

池田家が知行した時代の姫路城堀の内の屋敷割りを示した絵図。伊木・日置・荒尾など、後に岡山・鳥取両藩の重臣となる者たちの名前が確認できる。ほぼ同じ構図の絵図 (T6-29) が伝存している。

22 〔池田利隆宛徳川秀忠黒印状〕

1 通 (年未詳) 3 月 21 日
C9-58 45.7 × 62.7

宛名が「松平武蔵守」であることから、慶長12年(1607)6月以降の書状であることがわかる。「備州仕置」は利隆の備前監国に関わっての事項とみられる。これについて利隆は家臣の土肥周防守(5000石)を江戸に送っており、秀忠からの指示は本多正信(佐渡守)から伝えられるとされている。



23 〔備前国図〕(複製)

1 幅 〔慶長年間〕(1596 ~ 1615)
T1-5 329.0 × 280.7

現在知られている最も古い備前国の絵図。絵画的な古い画風で描かれており、慶長時代の絵図に間違いはないが、江戸幕府が作成を命じた慶長の国絵図との関係は不明である。岡山城下町は、天守閣や堀など総じて川西の景観は正確だが、川東は立派過ぎて現実離れしている。下津井城・金川城・八塔寺などの絵画的表現も目を引く。

24 〔淡路国絵図〕

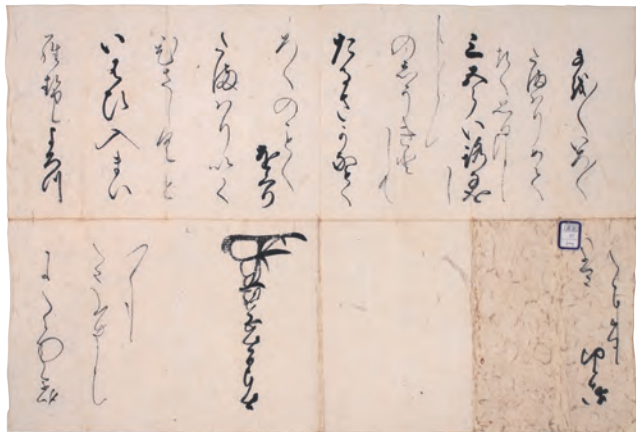
1 枚 (未詳) T1-109 116.0 × 163.1



慶長15年(1610)、淡路国一国が輝政と富子(徳川家康の娘)の子である池田忠雄に与えられた。忠雄が幼少であったため、実際の支配は輝政家臣の乾長治が岩屋を拠点として行っていた。慶長20年(1615)6月に忠雄が兄忠継の跡を継いで備前国一国と備中国南部の一部を支配することとなり、この時に淡路国は阿波蜂須賀家へと与えられている。

25 〔池田利隆室鶴子宛池田輝政書状〕

1 通 (慶長16年〈1611〉) 5月15日 C9-26 36.1 × 53.4

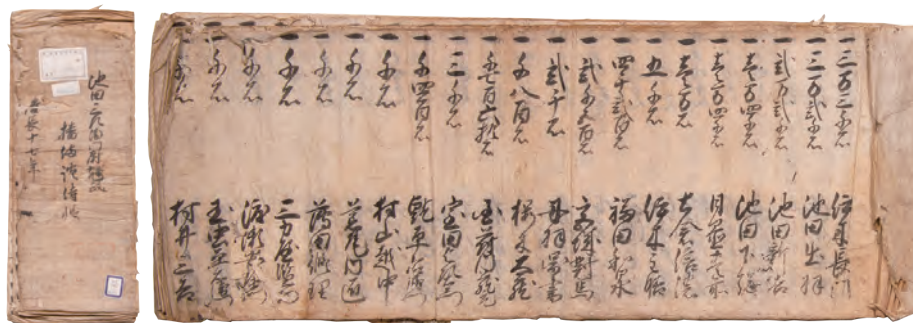


差出は池田輝政であるが、かな文字の多用や体裁からみて女性へ宛てたものであり、利隆室鶴子宛ての書状と考えられている。三五郎(恒元、利隆次男)の「いろなをし」(色直し)の祝儀として、酒と肴を贈られたことへの礼を述べている。色直しは、産後101日目に産婦と赤子がそれまで着ていた白小袖から色物へと着替えることである。

26 池田三左衛門尉輝政播備淡侍帳

横1冊 (慶長17年〈1612〉) D1-262 14.0 × 36.6

池田輝政のもとでの家臣団構成を記した分限帳写しである。後に岡山藩(池田光政)、鳥取藩(池田光仲)の重臣となる者たちの名前が複数確認できる。同年の輝政死去の後、これらの家臣団が分割されている。



27 大坂夏御陣図

1 枚 (未詳)
T12-14 107.8 × 129.2

もと8枚1組の大坂陣絵図のうちの1枚。「夏御陣 四」とあり、夏の陣の際の広域にわたる攻防を1枚に描いたもの。各地での戦闘の様子が細かく記録されている。「堺浦、松平武蔵守兵船三百艘二而相詰」とあり、池田利隆（武蔵守）が船で堺に詰めていたことが記されている。



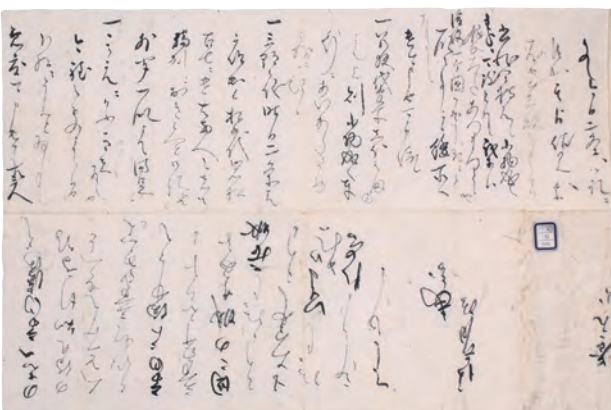
28 大坂夏御陣図

1 枚 (未詳)
T12-16 108.4 × 116.0

もと8枚1組の大坂陣絵図のうちの1枚。「夏御陣 六」とあり、大坂城周辺での最後の攻防を描いた図。朱色が豊臣方、墨色が徳川方。両軍武将の幟旗や馬印なども書き込まれている。

29 〔横井養元宛池田利隆書状〕

1 通 (慶長20年(1615)) 閏6月9日 C9-31 36.0 × 54.0

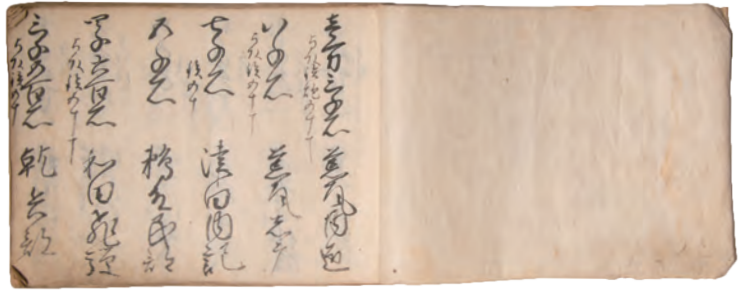


慶長20年(1615)2月に岡山の池田忠継が死去し、相続についての措置が行われた時期に出された書状である。池田忠雄(宮内)が備前国一国と備中国の一部(3万5000石)、忠継の弟3名には播磨西部の三郡がそれぞれ与えられることとなり、利隆には淡路国が加増されと考えていたことがわかる。しかし、実際には淡路国は阿波蜂須賀家に与えられており、利隆は冷遇に近い扱いを受けることとなった。宛名の横井養元は医者・学者で利隆の側近くに仕えた人物であり、光政の岡山藩治世時にも重用されたが、後に遠ざけられている。また、末尾近くに「国々の城共、多分わり候様ニ申候」などある通り、一国一城令に関わる内容も記されている。

33 侍帳

横半1冊 寛永11年(1634) D1-3 15.5×21.4

寛永9年の国替えから2年後の鳥取藩の分限帳の写しである。筆頭には家老・米子城代を務めた荒尾内匠(荒尾成利)、倉吉の支配を任せられた荒尾志摩(荒尾嵩就)の名前がみられる。展示史料26では荒尾内匠の知行は1000石であったが、大幅に増加していることがわかる。当時鳥取藩主の池田光仲は幼少であったため、池田光政が後見を務めていた。



34 因州鳥取之城之図

1枚 (未詳)
T3-268 81.6×79.0

軍学学習のための城図。袋上書から、岡山藩世嗣であった池田斉輝(1797～1819)のために作成されたものとみられる。光政入部以前6万石時代の鳥取城下町の様子が描かれている。柳土手が城下町を画する惣構えになっていて、その南に屋敷地は広がっていない。袋川も真直ぐに千代川に注いでいる。



35 因幡国鳥取絵図

1枚 元和5年(1619)9月6日
T3-3 136.0×165.0

裏面に「因州鳥取城之図／元和五年九月六日將軍家雷覧之図」とあり、余白には「因幡国鳥取絵図／公方様へ〔 〕被成御覧候絵図也／元和五年九月六日」と書かれている。柳土手の南に城下町を拡張し、新しい惣構えとして袋川を付け替える計画を示している。付紙から、柳土手の内側は武家地、その外が町家地、袋川に沿って侍町を設ける、という計画であることが分かる。光政はこの図を上洛中の將軍秀忠に直接見せて了解を求めた。

36 〔播州赤穂城図〕

1 枚（未詳） T3-282 81.0 × 82.0

軍学用の城郭図。「播州赤穂城図」（T3-5）の城郭図と基本的に同じだが、西の塩除古堤と北の川除け堤の描写、および海側の干潟の情報は、赤穂城図にはない。中央左に領主の変遷を示しており、赤穂藩初代藩主の池田正綱（池田輝政五男）の名前がみえる。



37 〔備中松山城下図〕

1 枚（未詳） T3-331-5 44.0 × 99.6

備中松山城および城下の全景を描いた図である。城下の西には松山川（現在の高梁川）が流れ、臥牛山の山頂に位置する城郭や麓の御根小屋、武家屋敷・寺地・町屋の区画が明瞭に描かれている。「松山城下之図」（T3-50-2）と類似した図であるが、両図の関係は不明である。元和3年～寛永18年（1617～1641）まで、池田長吉（輝政の弟）の子孫が同城を拠点として備中松山藩を治めた。



38 〔備中松山城本丸并天守平面図〕

1 枚（未詳） T3-331-1 50.1 × 39.2

本丸の建造物の配置と天守部分の区画を描いた図である。〔備中国松山城本丸并天守之平絵図〕（T3-50-7）と類似した図であり、幕末に岡山藩が松山を鎮撫した際に作られたものとみられる。



39 完栗山崎構之絵図

1 枚（未詳） T1-43 186.4 × 245.2

揖保川右岸の盆地にあった山崎陣屋（播磨国宍粟郡）と周囲の武家屋敷・町並が描かれている。慶長 20 年（1615）に池田輝政の子の輝澄が 3 万 8000 石を与えられ、山崎藩を立藩した。「池田数馬屋敷」とあることから、池田恒行（数馬）が藩主であった延宝 7～9 年（1679～1681）の様相を描いたものとみられる。特に武家屋敷の配置についての情報が豊富である。



40 〔井原村街道絵図〕

1巻 安政4年(1857)10月
T8-127 29.4 × 226.4

小田川右岸にあった井原陣屋を中心として、備中国後月郡井原村の山陽道沿いの町場を主に描いた絵図である。寺社や河川施設、町屋の様子が詳細に描かれている。寛永18年(1641)に備中松山藩主池田長常が無嗣子のまま死去し、同家は断絶した。その後、長常の弟である長信が1000石の旗本として存続を許され、井原陣屋を拠点とした。



41 武州様法令

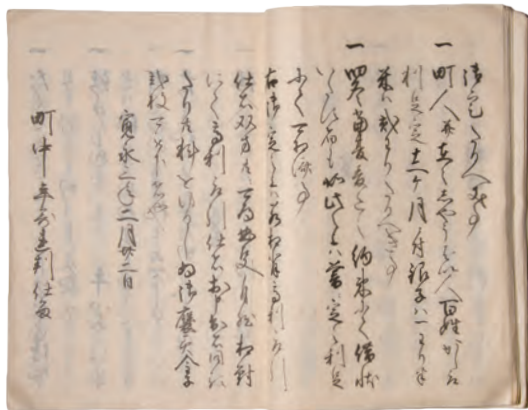
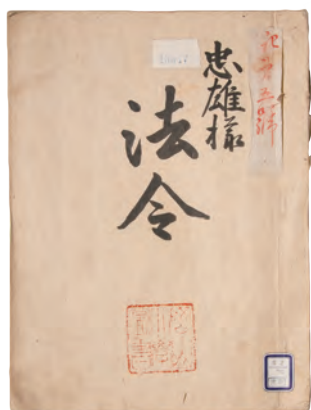
縦1冊 慶長8年(1603)3月~同20年(1615)3月
E2-69 26.6 × 19.8



小早川氏の改易後、池田忠継(輝政の子)が岡山を領することとなった。しかし幼少であったため、異母兄の池田利隆(輝政の長男、武蔵守)が藩政を取り仕切っており(「備前監国」)、主にこの時期に出された法令をまとめたものとみられる。展示箇所は慶長12年(1607)3月に出された「百姓に申渡覚」である。「目安」によって公儀へ意見を申し出ることを認める反面、百姓の「走り」(在所を逃亡すること)を禁じる内容も記されており、領主支配における硬軟両側面がうかがえる。

42 忠雄様法令

縦1冊 寛永元年(1624)5月~同5年(1628)11月 E2-70 26.6 × 19.8

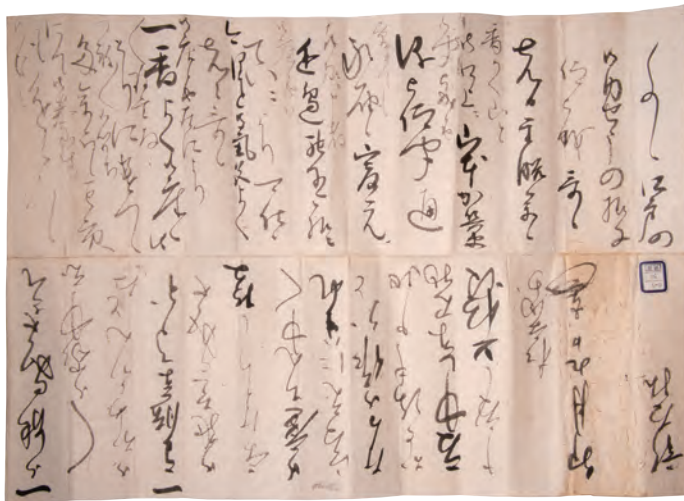


慶長20年(1615)2月に池田忠継が岡山城で死去し、その跡を同母弟である池田忠雄(輝政の子)が継ぐこととなった。本史料はこの忠雄が岡山を治めていた時代のうち、寛永年間のはじめに出された法令をまとめたものとみられる。展示箇所は寛永3年2月に出された「定」であり、銀や米を貸借する時の利息制限などが記されている。この時期の町方・村方においても、盛んに金銭貸借が行われていたことを物語っている。

43 〔池田光政宛池田忠雄書状〕

1 通 (年未詳) 4月9日 C9-38 37.0 × 52.8

江戸での様子を知らせた書状に対する忠雄の返書である。光政からみて忠雄は7歳年長であり、父親の異母弟（叔父）にあたる。香・能・庭園といった光政の好んだ文化的事象を知ることができる。また、忠雄が光政を気にかけており、両者の関係が良好であったこともうかがえる。

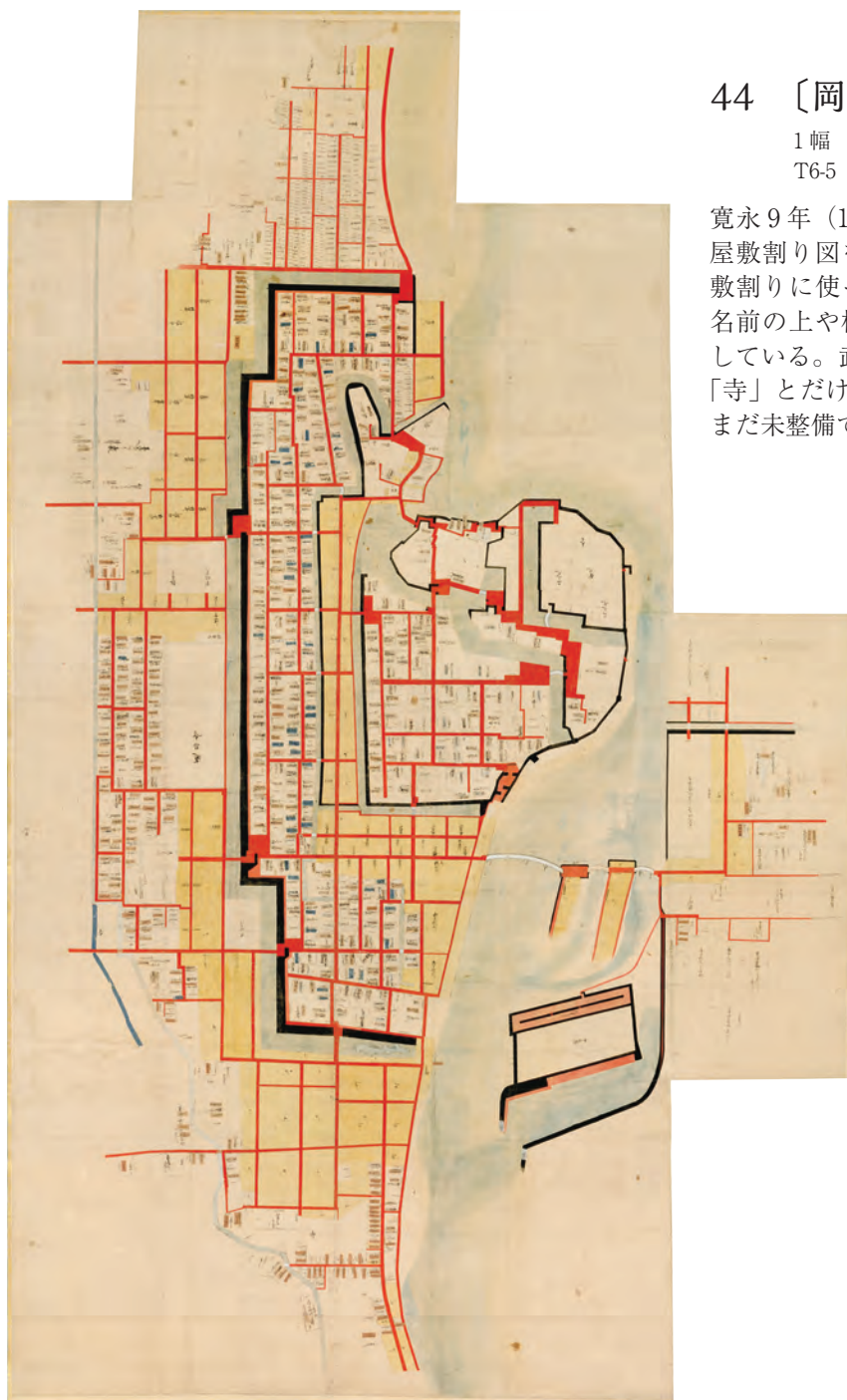


44 〔岡山古図〕（複製）

1 幅 (寛永9年〈1632〉)

T6-5 515.4 × 309.0

寛永9年（1632）の岡山転封のとき、忠雄時代の屋敷割り図を引き継いで、光政が自分の家臣の屋敷割りに使った岡山城下町図。忠雄時代の家臣の名前の上や横に、貼紙で新しい屋敷主の名前を示している。武家地はほぼ埋まっているが、「町」や「寺」とだけ書かれた地区も多く、町人地や寺地はまだ未整備であることが分かる。



45 島原戦地之図

1枚 (未詳)

T12-41 115.7 × 107.8

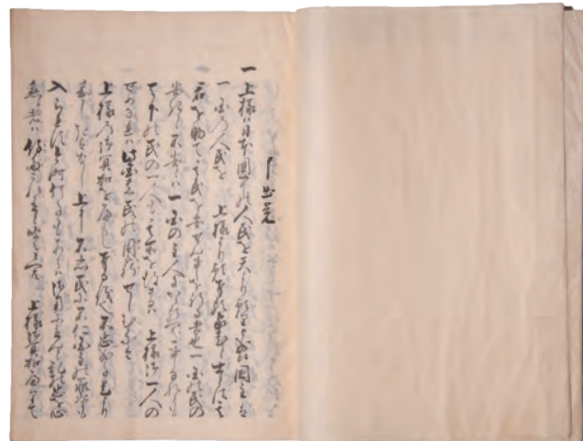
寛永14～15年(1637～1638)に起きた島原・天草一揆において、一揆勢が籠城した原城を攻める際の様子を描いた絵図である。井楼や柵をはじめとした城内外の防御施設、原城を囲む軍勢の配置等が詳細に描かれている。朱線は攻城側の進軍ルートを示しているとみられる。



46 光政公命令

竪1冊 明暦2年(1656)12月～寛文6年(1666)8月

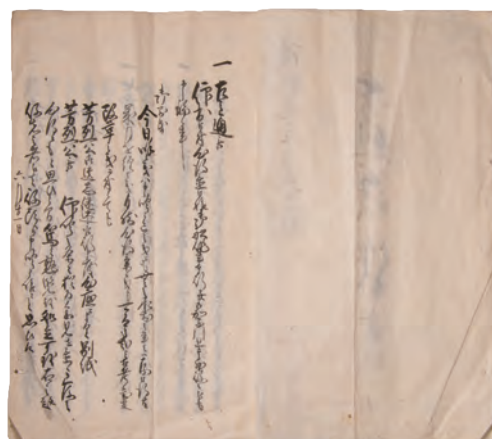
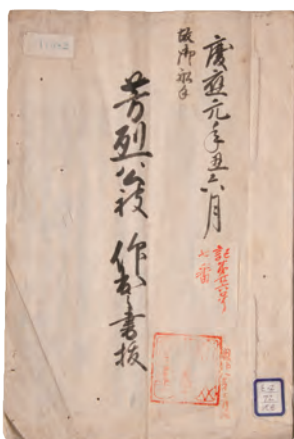
E2-143 27.5 × 19.6



展示箇所は、明暦2年12月に出された申渡の写しとみられる。冒頭に「一上様ハ日本国中の人民を天より預り被成候、国主は一国の人民を上様より預奉る、家老と士とは、其君を助て其民を安せん事を祈る者也」とあるように、将軍から国を預かる藩主としての自意識と、藩士はこれを支えるべきとする点、領民の生活を重視する点など、光政の支配思想をうかがえる内容となっている。

47 芳烈公被 仰出之書抜

竪1冊 慶応元年(1865)6月 E2-72 28.3 × 18.8



表紙に「故御船手」の貼紙があり、岡山藩の船を管轄する「船手」で作成された文書であるとみられる。慶応元年の藩主は池田茂政(水戸藩主徳川斉昭の子)である。藩政の改革を行うにあたり芳烈公(池田光政)の遺志を引き継ぐこと、藩士も芳烈公の遺志と仰せ聞かされた内容をよく理解しておくべきであると茂政が考えていたことがうかがえる。

【林原美術館出展資料】

林 1 伽羅・袴裂 池田恒興所用

一組 安土桃山時代

衣装関係 131 伽羅：縦 1.7、横 1.1 袴裂：縦 24.1、横 14・0



伽羅・袴裂



由来書、熨斗袋ほか

池田恒興は天正 12 年（1584）に、羽柴秀吉と徳川家康が戦った長久手の戦いで、嫡男の元助（之助）や娘婿の森長可らと共に討死した。当時の武将は戦陣に立つ前に名香を衣類に焚き染めたといい、恒興もこの伽羅を用いたと伝えられる。また、牡丹唐草文様の緞子裂は着用していた小袴の一部分と伝えられ、伽羅・袴裂ともに恒興の最期にまつわる遺品として、寛延 2 年（1749）に元助の子孫から四代岡山藩主の池田宗政（1727～64）へ献上された。岡山藩主池田家伝来品。

林 2 青貝泊蝶紋付鞍・獅子金象嵌鐙 池田輝政・利隆所用

一脊・一足 安土桃山～江戸時代

馬具 101-1・2 鞍：前輪高 26.4、後輪高 31.6、居木長 37.4 鐙：高 25.7、幅 13.9、奥行 29.3



鞍には小片に切った青貝が一面に塗り込められ、前輪に泊蝶紋の蒔絵がほどこされている。鐙は鉄地で、表面全体に銀で紗綾形の線象嵌をし、胸の上部には銀の泊蝶、胸部分には金の獅子、下部に渦巻模様がそれぞれ線象嵌されている。

鞍と鐙の図柄は一致していないが、象嵌の出来や、輝政及び利隆所用の箱書があること、また箱蓋表には「三拾個内」の「第壺」と「第弐」の紙札が貼られ、箱中には「天覧品」の紙札が入っていることなどから、池田家にとって特別な一具であったことがうかがえる。岡山藩主池田家伝来品。



出展資料目録

番号	資料名	員数	年代	整理番号	法量(h×w,cm)
【戦国・織豊期の池田家】					
1	〔池田恒興宛織田信長朱印状〕	1通	天正元年(1573)9月7日	C9-57	29.0×45.2
2	信長記(第1・2・3・13巻)	4冊	慶長15年(1610)	貴-48	24.2×16.9
3	〔郷司作内宛池田恒興(信輝)判物〕	1通	天正9年(1581)10月17日	C9-28	29.0×45.2
4	〔美濃国絵図〕	1枚	(未詳)	T1-67	116.9×164.8
5	濃州大垣城図	1枚	(未詳)	T3-193	27.6×40.7
6	甲斐新府中城之図	1枚	(未詳)	T3-332-24	40.7×40.4
7	長久手古戦場之図	1枚	(未詳)	T12-115	107.6×103.5
8	越中富山城図	1枚	(未詳)	T3-34	27.9×40.6
9	〔池田輝政宛豊臣秀吉朱印状〕	1通	(天正18(1590))年3月23日	C9-62	45.6×63.2
10	相州小田原城之図	1枚	(未詳)	T3-98	49.6×69.2
11	〔池田輝政宛豊臣秀次黒印状〕	1通	天正19年(1591)8月20日	C9-45	32.8×47.2
12	〔三河国絵図〕	1枚	(未詳)	T1-48	108.2×77.8
13	参州吉田御城図	1枚	(未詳)	T3-97	40.7×84.7
14	〔池田輝政宛豊臣秀吉朱印状〕	1通	(文禄2年(1593))7月26日	C9-61	46.0×65.8
【池田家と関ヶ原の闘い・大坂の陣】					
15	〔関ヶ原合戦図〕	1枚	(未詳)	T12-27	140.8×159.6
16	〔池田輝政宛徳川家康書状〕	1通	(慶長5年(1600))8月26日	C9-77-1	37.0×54.2
17	〔池田輝政・福島正則宛徳川家康書状〕	1通	(慶長5年(1600))9月朔日	C9-77-3	37.0×54.1
18	〔正木時茂宛徳川秀忠書状〕	1通	(慶長5年(1600))9月11日	C9-80	36.4×52.3
19	〔池田利隆宛徳川家康黒印状〕	1通	(慶長12年(1607))10月4日	C9-53-2	41.7×62.4
20	播州姫路城下図	1枚	(未詳)	T6-30	90.0×124.6
21	〔姫路城内家臣用屋敷割図〕	1枚	(未詳)	T3-12	102.8×98.2
22	〔池田利隆宛徳川秀忠黒印状〕	1通	(年未詳)3月21日	C9-58	45.7×62.7
23	〔備前国図〕(複製)	1幅	〔慶長年間〕(1596～1615)	T1-5	329.0×280.7
24	〔淡路国絵図〕	1枚	(未詳)	T1-109	116.0×163.1
25	〔池田利隆室鶴子宛池田輝政書状〕	1通	(慶長16年(1611))5月15日	C9-26	36.1×53.4
26	池田三左衛門尉輝政播備淡侍帳	横1冊	(慶長17年(1612))	D1-262	14.0×36.6
27	大坂夏御陣図	1枚	(未詳)	T12-14	107.8×129.2
28	大坂夏御陣図	1枚	(未詳)	T12-16	108.4×116.0
29	〔横井養元宛池田利隆書状〕	1通	(慶長20年(1615))閏6月9日	C9-31	36.0×54.0
【池田一族と所領】					
30	宇喜多家土帳	横半1冊	貞享2年(1685)9月14日	D1-255	14.8×19.1
31	先祖并御奉公之品書上 津下古庵	竖1冊	元治元年(1864)12月29日	D3-2922	27.9×19.7
32	侍与寄帳	横半1冊	寛永9年(1632)10月23日	D1-2	15.0×20.6
33	侍帳	横半1冊	寛永11年(1634)	D1-3	15.5×21.4
34	因州鳥取之城之図	1枚	(未詳)	T3-268	81.6×79.0
35	因幡国鳥取絵図	1枚	元和5年(1619)9月6日	T3-3	136.0×165.0
36	〔播州赤穂城図〕	1枚	(未詳)	T3-282	81.0×82.0
37	〔備中松山城下図〕	1枚	(未詳)	T3-331-5	44.0×99.6
38	〔備中松山城本丸并天守平面図〕	1枚	(未詳)	T3-331-1	50.1×39.2
39	完栗山崎構之絵図	1枚	(未詳)	T1-43	186.4×245.2
40	〔井原村街道絵図〕	1巻	安政4年(1857)10月	T8-127	29.4×226.4
41	武州様法令	竖1冊	(慶長8年(1603)3月～同20年(1615)3月)	E2-69	26.6×19.8
42	忠雄様法令	竖1冊	(寛永元年(1624)5月～同5年(1628)11月)	E2-70	26.6×19.8
43	〔池田光政宛池田忠雄書状〕	1通	(年未詳)4月9日	C9-38	37.0×52.8
44	〔岡山古図〕(複製)	1幅	(寛永9年(1632))	T6-5	515.4×309.0
45	島原戦地之図	1枚	(未詳)	T12-41	115.7×107.8
46	光政公命令	竖1冊	(明暦2年(1656)12月～寛文6年(1666)8月)	E2-143	27.5×19.6
47	芳烈公被 仰出之書拔	竖1冊	慶応元年(1865)6月	E2-72	28.3×18.8
【林原美術館】					
林1	伽羅・袴裂 池田恒興所用		(安土桃山時代)	衣装関係131	伽羅：1.7×1.1 袴裂：24.1×14.0
林2	青貝泊蝶紋付鞍・獅子金象嵌鐙 池田輝政・利隆所用		(安土桃山～江戸時代)	馬具101-1・2	鞍：総高31.6、 居木長37.4 鐙：25.7×13.9

池田家文庫絵図展

年度	展示テーマ	会 期	会 場
平成9	絵図にみる岡山城	1997年10月24日～11月2日	岡山大学附属図書館
平成10	岡山藩と海の道	1998年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成11	後楽園と岡山藩	1999年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成12	備前慶長国絵図のふしぎ	2000年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成13	岡山藩江戸藩邸ものがたり	2001年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成14	開けゆく岡山平野 岡山藩の新田開発 (1)	2002年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成15	新田開発をめぐる争い 岡山藩の新田開発 (2)	2003年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成16	岡山城下町をあるく	2004年10月23日～11月1日	岡山大学附属図書館
平成17	江戸時代の岡山 池田家文庫絵図名品展	2005年9月29日～10月10日	岡山市デジタルミュージアム
平成18	戦さと城	2006年10月26日～11月12日	岡山市デジタルミュージアム
平成19	陸の道	2007年11月16日～12月2日	岡山市デジタルミュージアム
平成20	日本と「異国」	2008年11月1日～11月16日	岡山市デジタルミュージアム
平成21	岡山藩の教育	2009年9月29日～10月18日	岡山市デジタルミュージアム
平成22	絵図にみる中国四国地方の城下町	2010年11月16日～11月28日	岡山市デジタルミュージアム
平成23	江戸時代の巨大手描き絵図	2011年10月22日～11月6日	岡山市デジタルミュージアム
平成24	日本六十余州図の世界	2012年11月10日～11月25日	岡山シティミュージアム
平成25	開国と岡山藩	2013年11月4日～11月17日	岡山シティミュージアム
平成26	岡山藩と明治維新	2014年11月1日～11月16日	岡山シティミュージアム
平成27	京都と岡山藩	2015年10月24日～11月8日	岡山シティミュージアム
平成28	江戸と岡山藩	2016年10月29日～11月13日	岡山シティミュージアム
平成29	池田光政と絵図	2017年11月3日～11月19日	岡山シティミュージアム
平成30	岡山藩と寺社	2018年11月3日～11月18日	岡山シティミュージアム
令和元	武家と天皇	2019年10月19日～11月4日	岡山シティミュージアム
令和2	岡山・大坂と海の道	2020年10月31日～11月15日	岡山シティミュージアム
令和3	岡山藩と武芸	2021年10月30日～11月14日	岡山シティミュージアム
令和4	岡山城と人々の暮らし	2022年10月22日～11月20日	岡山シティミュージアム
令和5	岡山藩の郡・村と藩政	2023年10月7日～11月5日	岡山シティミュージアム
令和6	江戸時代のはじまりと池田家	2024年11月9日～12月8日	岡山シティミュージアム

記念講演会

年度	記念講演会	記念講演会講師（役職は当時）	期 日
平成9	絵図を読む	岡山大学文学部教授 倉地克直	1997年10月25日
平成10	瀬戸内の交流	岡山県総合文化センター総括学芸員 竹林榮一	1998年10月23日
平成11	日本庭園と後楽園	岡山大学農学部教授 千葉喬三	1999年10月23日
平成12	江戸幕府の国絵図事業	東亜大学教授 川村博忠	2000年10月28日
平成13	岡山藩の江戸藩邸	東京大学史料編纂所教授 宮崎勝美	2001年10月23日
平成14	津田永忠と岡山藩の土木事業	岡山大学環境理工学部教授 名合宏之	2002年10月26日
平成15	近世の境界論争と裁判	東京大学史料編纂所助教授 杉本史子	2003年10月23日
平成16	岡山城下町を掘る ～絵図と遺構～	岡山市デジタルミュージアム開設事務所 乗岡実	2004年10月23日
平成17	池田家文庫絵図の見方	岡山大学文学部教授 倉地克直	2005年10月1日
平成18	「長久手合戦図屏風」の世界	茨城大学人文学部教授 高橋修	2006年10月26日
平成19	江戸時代の陸上交通	岡山県立記録資料館館長 在間宣久	2007年11月23日
平成20	「鎖国」の中の日本と朝鮮	名古屋大学文学部教授 池内敏	2008年11月1日
平成21	儒教教育と武士の人間形成	京都大学大学院教育学研究科教授 辻本雅史	2009年10月3日
平成22	デジタルマップで廻る城下町	徳島大学大学院ソシオ・アーツ・サイエンス研究部 教授 平井松午	2010年11月20日
平成23	国絵図復元の成果	東京藝術大学大学院准教授 荒井経	2011年10月23日
平成24	徳川家光と日本	京都大学名誉教授 藤井譲治	2012年11月18日
平成25	開国と開港	東京大学史料編纂所教授 横山伊徳	2013年11月9日
平成26	幕末維新期の岡山	東京大学名誉教授 宮地正人	2014年11月8日
平成27	近世京都の大名屋敷	京都大学大学院文学研究科教授 横田冬彦	2015年10月31日
平成28	大名家の江戸勤役	学習院女子大学大学院教授 岩淵令治	2016年10月30日
平成29	池田光政の時代	岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授 三宅正浩	2017年11月12日

年度	記念講演会	記念講演会講師（役職は当時）	期 日
平成30	池田家と国清寺	元岡山県立記録資料館館長 在間宣久	2018年11月10日
令和元	『大嘗祭』の誕生 ―古代の皇位継承儀礼の生成と変異―	専修大学名誉教授 荒木敏夫	2019年10月26日
令和2	西国の武士、大坂に出張する ―蔵屋敷と大坂城加番―	兵庫県立歴史博物館長 藪田貫	2020年11月7日
令和3	戦国合戦図屏風の世界 ―池田家にかかわる作品を中心に―	茨城大学人文社会科学部人間文化学科教授 高橋修	2021年11月6日
令和4	近世日光山と諸国の東照宮 ―建築とまつり―	筑波大学人文社会系准教授 山澤学	2022年11月12日
令和5	近世の地域社会と藩政 ―宗門改と人の把握―	京都府立大学文学部歴史学科教授 東昇	2023年10月28日
令和6	中世の終わり ―中国地方の戦国時代―	岡山大学学術研究院教育学域教授 村井良介	2024年11月23日

パネルディスカッション

年度	パネルディスカッション	期 日
平成23	国絵図復活 東京大学史料編纂所教授 杉本史子 東京藝術大学大学院准教授 荒井経 電気通信大学准教授 佐藤賢一 筑波大学大学院博士前期課程 中村裕美子 国絵図研究会会員 青木充子 〔司会〕東京大学大学院准教授 中村雄祐	2011年10月23日

令和6年度企画展 池田家文庫絵図展 江戸時代のはじまりと池田家

発行日／令和6年11月9日

主 催／岡山大学附属図書館・岡山シティミュージアム

共 催／林原美術館

発 行／岡山大学附属図書館

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目 1-1

印 刷／株式会社アネスト



岡山大学学都基金

—地域・社会とともに、真のグローバル人材を育成する—



「岡山大学学都基金」では、本学における学生支援、教育・研究活動、国際交流及び社会貢献活動の一層の充実を図るとともに、新たな価値を創造し続けるSDGs推進研究大学の進展等に資することを目的として、平成27年4月から募金活動を行っております。

現在、大学の運営基盤を支える運営費交付金は毎年減少傾向にあり、本学を取り巻く環境は大変厳しくなっております。卒業生をはじめ、広く地域・社会その他諸方面の皆様には、「岡山大学学都基金」についてご理解いただき、格別のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



リサイクル募金によるご寄付も受付中

お問い合わせ

岡山大学学都基金室(総務・企画部総務課)

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL: 086-251-7009 E-mail: kikin@adm.okayama-u.ac.jp
電話受付: 9:00-17:00(土・日・祝日除く)

寄付の方法

岡山大学学都基金では、オンラインでの決済による寄付を受け付けています。振込による寄付も可能で、パンフレットと振込用紙をお送りします。また、岡山大学学都基金への寄付は、個人・法人を問わず税制上の優遇措置を受けることができます。詳しくは、学都基金のホームページをご覧ください。



学都基金ホームページ

岡山大学学都基金

検索

<https://www.okayama-u.ac.jp/user/kouhou/kikin/>



池田家文庫資料叢書



岡山大学附属図書館貴重資料刊行推進会 編（編集代表：倉地克直）

A5 判 / クロス装・ケース付

岡山大学附属図書館に所蔵されている池田家文庫の貴重資料のうち、特に学術的価値の高いものを厳選して刊行しています。

池田家文庫資料叢書 3

「御留帳評定書」上・下巻 各 19,800 円（税込）

【上巻】本文 605 頁、解説 19 頁 【下巻】本文 558 頁

岡山藩の政策決定機関である評定所での審議の様子を記録した、当時の社会状況とそれに対する藩の対応を具体的に知ることができる貴重な資料です。

池田家文庫資料叢書 2

「朝鮮通信使饗応関係資料」上・下巻

【上巻】本文 598 頁、解説 22 頁 11,000 円（税込）

【下巻】本文 749 頁、解説 25 頁 12,222 円（税込）

池田家文庫資料叢書 1

「御留帳御船手」上・下巻 各 7,700 円（税込）

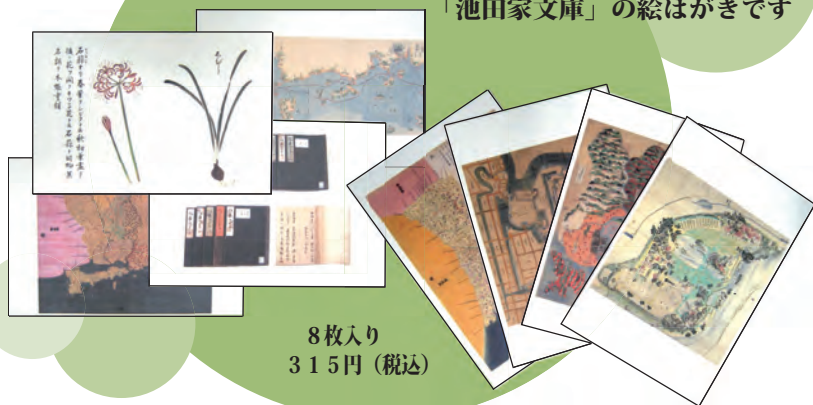
【上巻】本文 627 頁、解説 9 頁 【下巻】本文 716 頁



※電子書籍版（機関向け）が発売されました。詳しくは弊社 HP <https://www.lib.okayama-u.ac.jp/up/> をご覧ください。

池田家文庫 絵はがき 第一集

岡山大学附属図書館所蔵の貴重資料
「池田家文庫」の絵はがきです



8 枚入り
315 円（税込）

※絵はがきは出版会に直接お申し込みください
書店での販売はございません



8 枚入り
315 円
（税込）

岡山大学資源生物科学研究所
所蔵貴重資料 絵はがき

岡山大学出版会

◇ご購入方法：岡山大学出版会、またはお近くの書店にお問い合わせください
メールでのご注文はこちらへ → okayama-up@adm.okayama-u.ac.jp

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中 3-1-1
Tel : 086-251-7306 Fax : 086-251-7314

岡山大学出版会 |

検索

<https://www.lib.okayama-u.ac.jp/up/>